

瓦谷山



瓦谷山だより



発行日 2023年12月15日
発行人 (宗) 真光寺
岡本和幸
印刷 現代社
編集 (宗) 真光寺

問い合わせ先
(宗) 真光寺
TEL 0438-75-7414

○お寺HP
<https://www.shinko-ji.jp/>
○上総自然学校HP
<https://www.shinko-ji.jp/satoyama/>

vol.54

今年の夏は異例づくめでした。炎天下での作業も苦にならない体質と自認していましたが、体温に近い暑さは思いのほか堪えませんでした。水不足にも悩まされました。スコールのような雨は、大量に降ったように見えても地中に浸透してゆかないばかりか表土を押し流してしまします。大雨の後の畑で土を掘ると、水は五センチほどしか沁み込んでいませんでした。今年開設した第四期の樹木葬墓地では、植樹したばかりの木が枯れそうになり、また境内の芝生も茶色に変わりはじめたため、職員が早朝出勤して水やりを行い、被害は最小限に留まりました。霜月といわれる十一月だというのに夏日という言葉を聞く、あまりに長すぎる夏に温暖化が取り返しのつかないところまで来たことを実感しています。

仏典の逸話の中に、コーサラ国パセナデー王とマツリカー妃の話があります。新婚ほやほやの王は妃に問いました。「この世で最も愛おしいものは何か」。妃の「それは自分です」という答えに王はがっかりしましたが、考えてみればたしかに一番大切なのは自分自身です。そこで王は「私も自分が最も愛おしい」と答えました。二人はお釈迦様のところに行つてこの話をし、「お釈迦様は自我を捨てよと説かれますが、私たちは誰よりも大切な自分を捨てることなどできません」と打ち明けます。お釈迦様は「それは私も同じだ。だがそのことに気がついたあなたがたは、他人の自我も自分の自我と同様に大切にしなければならない」と諭されたといひます。

お釈迦様のおさとの要点は、「地球のすべてのものは一体の命を生きている」ということ、そして「私」だと思つているものは過去の縁の集合体にすぎない、「私」などというものはどこにもなかった、という「無我」への気づきであると言つてよいでしょう。すべてのものと繋がり、そのおかげで自分が今生かされていることを理

解したとき、慈悲の心が生まれます。すべての生きとし生けるものも、生きていない大地や空、石ころさえも慈しみの対象となるのです。それらがあつたればこそ、この命は今を生きていることに気がつき、他の存在に対しても自己と同様に智慧と慈悲を働かせることができる、それが自分を大切にすることに繋がるということです。

旧約聖書の創世記には「産めよ、ふえよ、地に満ちよ、地を従わせよ」という言葉があります。一神教の創造主が創造物に対して述べた地域や部族の繁栄を願う言葉ですが、仏教は「少欲知足に徹して、自らを清めよ」と説きます。欲に衝き動かされれば人は際限なく貪るが、心をととのえることで自ずから欲は抑えられる、というわけです。お釈迦様は、人間の強欲によつて疲弊し破壊されつつある二千五百年後の地球の姿を予見していたとも言われます。

すべての存在を一体の命を生きるものとして尊重する仏教の考え方は、自然崇拜を意識の根底にもつ日本人にとつて親和性のある思想であつただろうと思ひます。しかし今日の社会では、あたかも資本主義が一神教のごとく尊崇されています。経済的繁栄を至上とする価値観を改めなければ、「少欲知足に徹して、自らを清めよ」という思想が受け入れられるはずありません。温暖化を食い止めるために生活や考え方を変えることはおそらく不可能でしょう。それでも子どもたちの未来のためにできることはあるのではないかと思ひます。絶望せず少しでも、少しでも未来のためにできることを行つていきたいものです。

また一つ新たな歳を迎えるお正月がやってきます。三が日には皆様の胸に宿る願いを仏前において表明する儀礼である、ご祈禱を例年通り薬師堂で行います。多くの皆様の御参詣をお待ちしています。

合掌

真光寺住職 岡本和幸

縁の会総会報告

令和五年十一月三日、第十一回縁の会総会を開催いたしましたのでご報告します。

午前の部

午前は書院にてご本尊様へのご挨拶の法要と月例供養及びのぼり旗奉納を厳修。その後、住職から直近一年間で行ってきた事業や今後の計画、会計収支についてを報告。事務局からは樹木葬墓苑のお参り、ご利用に関する諸注意を申し上げ、昼食となりました。



法要後は住職から事業報告。

午後の部

午後は事前にお申し込みの三つのプログラムの分かれてご参加いただきました。

①念珠作り体験

自分で石と紐を選び、世界でたった一つのオリジナル念珠を作るワークショップ。念珠の意味や各宗派で使われる念珠の違いなどのお話を伺いながら、和やかな雰囲気の中で全員が無事に自分の手で念珠を完成させることができました。



皆さんそれぞれ自分だけの念珠作り。

②川原井里見城跡見学ツアー

昨年に続き第二回となりました城跡ツアー。前回は見上げるだけだった浅間山を巡り、十二神将様の祠や庚申塚も見えて回りました。急な階段や坂道が続く険しい道中でしたがリタイアされる方もなく、住職による川原井地区の歴史などの解説に時間の経つのも忘れて聞き入っていました。



浅間山(せんげんやま)で住職の話に聴き入る参加者。

③チャリティ寄席

ヴァイオリン漫談家のマグナム小林さんに芸を披露していただきました。

ヴァイオリンで

動物や虫の鳴き声を表現したり、時代劇「暴れん坊將軍」のテーマ曲を弾きながらタップダンスで馬が駆け回る音を表現する芸に会場は大盛況。軽妙なトークも場を楽しませてくれました。



ヴァイオリンを使った珍しい芸。

お墓参り・境内ご利用の注意点

樹木葬墓苑お参りのご案内

●墓苑内での火気の使用は山火事の恐れがありますので、所定の場所を除き線香を含めご遠慮ください。
●供物や花苗の名札など人工物の放置はご遠慮ください。

●供え花を植えることのできる範囲は碑の周囲のみです。(ポット苗十個程度。種類は一年草。)

●墓地の除草は碑の周りだけをお願いいたします。

●ゴミ箱を設置しました。墓参で発生したゴミのみ、分別の上捨てることができます。

●墓参の時間帯は午前九時～午後五時の間をお願いいたします。(午後五時で建物は施錠します。)

樹木葬墓苑の管理

●一年を通じて定期的に下草の刈取りを行っています。季節や天候により管理工程以上の早さで繁茂する場合もありますのでご理解のほどお願いいたします。

●十五年を過ぎて植樹の強剪定、伐採を行っています。

●規定に反した花植え、植樹等については、適宜除草、伐採いたします。

●森の苑中央部の井戸は水が涸れる場合があります。水が出ない場合には事務所にお知らせください。

●スズメバチや蛇を見かけた場合には静かにその場を離れてください。

送迎

●前日の午後四時までにご予約をお願いします。車両の維持費に充当しますのでお布施をお願いします。

●花植え代行
●碑周囲の花植えを寺でお受けしています。花のみの準備もできます。

●ペットとの墓参
●墓苑内はペットとお散歩できます。室内には入れません。

※以上のお知らせ事項は、ご家族、ご親族、ご友人にもお伝えください。

団参紀行

真光寺職員 森香有

十月二十三日、大型バスに乗って真光寺を出発し、千葉駅、東京駅から合流の方たちと共に、総勢三〇名で信州長野県上田へ、一泊二日の旅へ迎いました。

この日は快晴で、まさに旅行日和。長野県別所に着いてまず昼食。美味しい秋の味覚、キノコの炊き込みご飯や天ぷら、信州そばなどを歓談と共に堪能致しました。お腹がいっぱいになったところで、次は曹洞宗安楽寺へ。

安楽寺の若林恭英老師は、真光寺住職が専務理事を務めているシャンティ国際ボランティア会の会長でいらっしやいます。

今回は特別に、同寺の国宝「八角三重塔」を内部まで直々にご案内くださいました。内部には、通常は拝観できない観音様が厳かに鎮座されており、有難くお参りさせていただきました。



曹洞宗安楽寺本堂前で



別所で秋の味覚を堪能



常楽寺前にて



北向観音からの景色

安楽寺の拝観を終え、そのまま歩いて常楽寺へ。常楽寺は、茅葺屋根が印象的なお寺です。

本堂でお経をあげさせていただき、お参りいたしました。その後は温泉街を抜けて、長い階段を登り、すぐ近にある天台宗の別格本山北向観音を参拝。こちらも見どころが多く、本堂の観音様を始め、愛染明王御堂や薬師如来御堂もあります。また高台のため、非常に美しい夕焼けを見ることが出来ました。

最後は本日の宿中松屋。一日の疲れを癒しに温泉へ。夜の宴会では、信州名物と松茸をふんだんに使用した食事をいただきながら、普段ではゆっくり話せないようなことも語り合っって親交を深めました。美肌の湯は入浴した人を若返らせてしまうようで、日付を過ぎても部屋に戻っていきなかつた方が多くいたそうですね。

二日目は曹洞宗東昌寺へ。東昌寺のご住職も、シャンティ国際ボランティア会の理事を務められており、真光寺住職とは同志の間柄

です。お寺にまつわる様々なお話を聞かせてくださり、荘厳な境内の中で和やかなひと時を過ごさせていただきました。

次に、上田城址公園を散策。上田城の歴史に触れ、真田神社にお参りをしてから、小諸ワイナリーへ。こだわりのワイン製造について分かりやすく映像化された動画を視聴後、庭園の地下にある特別なセララへのご案内いただきました。その後、市販されていないという貴重なワインの試飲を。全部飲み干していただいたのは真光寺の職員だけだっという噂もございいますが、真相は如何ほどに…？

寺院参拝をメインに仏教の学びを深め、当地の歴史やワインのお楽しみなどもあり、本当に充実した二日間でしたが、何よりも楽しかったのは、参加された皆さまと様々な体験を共にし、たくさん交流できたことでした。また、このような旅行で多くの方にお会いできますことを、心待ちにしています。



東昌寺ご住職のお話を拝聴



小諸ワイナリー見学

団体参拝旅行に参加して

十月三十一日

縁の会会員 植手禮子

快晴に恵まれた十月二十三日、二十四日に一泊二日のバス旅行がありました。四年ぶりの団参旅行は、紅葉もはじまった信州の鎌倉といわれる別所温泉の古刹、安楽寺を皮切りに、常楽寺、北向観音、翌日東昌寺にお参りしました。

老舗日本旅館中松屋で、温泉にゆつくりつかり疲れをとり、夕食は松茸の産地とのことで炊き込みご飯、先付、土瓶蒸し、天ぷらとその他信州の食材を使った献立を味わい、皆和気あいあいなごやかな雰囲気でした。

翌日、帰り道では上田城址公園、小諸のワイナリーに立ち寄り、と盛り沢山でした。



東昌寺本堂前にて

お寺では、ご住職の丁寧な説明をお聴きし、色々歴史を知ることが出来、いくつかの国宝、重要文化財も拝観することが出来ました。特に、安楽寺の八角三重塔は屋根の造り、内部の様子も見事なものでした。みんなで山道をたくさん歩きました。

私は、四年前の高野山、比叡山の旅以来、二度目の参加でした。前回、親しくなった先輩と一緒に申込み、再開の期待でわくわくしていました。

老化の膝腰を気にしながらではありましたが、真光寺スタッフはじめ、皆様の暖かい対応で無事に楽しむことが出来、心から感謝しております。前回は今回も感じたことですが、旅行中は勿論家に帰ってから「よかった!」「楽しかった!」



上田城址公園散策

と、やさしさいっぱい親睦の旅を笑顔で思いうすことが出来ています。

初対面同士も多い中でお互いに自然体で行動、それぞれ思いやりもをって接することが出来る、この縁の会はすばらしい!と思います。普段の生活にも、この経験が活かされますように。さわがしい世の中でバランスをとって、自分らしく生きられますように願っています。

最後に、旅行中印象に残った言葉を記します。(一日目、旅館に向かう途中の道端、おそらく北向観音境内の札にかかれておりました)

「少しの不便さは ゆとりを生む」

何とか、こんな生活をしてみようと思っております。次回の団参旅行で、元気に、笑顔で皆さまとの再会を祈っております。



北向観音前参道にて 筆者植手さん(右)

【連載】未来に伝えたいふるさとの歴史VIII

袖ヶ浦市郷土博物館顧問 井口 崇

戦国時代の城館・湊・道(二)

―江戸湾をめぐる覇権争い―

今回は、戦国大名の上総武田氏・安房里見氏・小田原北条氏が江戸湾の覇権をめぐるように対立していたのかを、沿岸の村々や湊を押さえるために築かれた城「海城」と、海を舞台に活躍した「海賊衆」について触れながら、江戸湾の戦国時代を探ってみよう。

*江戸湾：ここでは現在の東京湾（房総半島南端の洲崎と三浦半島南端の剣崎を直線で結んだ内側の海域としておきます。江戸湾という呼び方があったかどうかは定かではありませんが、この海は、江戸時代より前の史料では「前浜」や「内海」などと表記されていて、その内海の対岸はお互いに向地（むかいじ・むこうじ）と呼び合っていたようです。

■江戸湾の湊町

古来、前浜や内海とよばれた江戸湾の沿岸各地は、海上・河川・湖沼を含む水上交通で結ばれていました。そして中世になると、主要河川の河口近くに、人・もの・情報等が集積する湊町が形成されました。江戸湾では、西岸が大消費地となって発展していて、品川・神奈川・六浦（金沢）が代表的な湊町となっていました。古代から房総への玄関口でもあった六浦は、鎌倉の外港として中国との貿易や江戸内湾の交易によつて栄え、中国からは大量の宋銭や仏典・書物・陶磁器類などが輸入されていました。東岸では、浜野（千葉市）、椎津（市原市）、名良輪（袖ヶ浦市）、木佐良津（木更津市）、富津・天神山・金谷（いずれも富津市）等の湊町がありました。それらの湊は、対岸の消費地の暮

年代	西暦	主な出来事	参考事項
大永6年	1526	里見義豊の命で正木・武田両軍が江戸城下の品川を攻略。里見義豊軍が鎌倉攻略。鶴岡八幡宮社殿炎上。	里見氏VS北条氏の江戸湾攻防のはじまり
天文2年	1533	里見義豊が叔父の実跡を討つ。実跡の子義堯は百首城に武田氏を頼り避難し北条に支援を依頼。北条水軍の海賊衆山本氏、妙本寺を攻める。	天文の内乱（里見家の家督・主導権争い）
天文7年	1538	古河公方足利利晴の命で北条氏綱が小弓公方足利義明・北条義堯と戦。足利義明が戦死し小弓公方滅亡、義堯は安房へ退却し義明の遺児を庇護。	第1次国府台合戦北条氏が勝利。北条氏綱関東管領となる
天文21年頃	1552頃	真里谷城主武田信成死去。	真里谷武田氏滅亡
天文22年	1553	北条氏が金谷城や妙本寺（鋸南町）周辺に侵攻。天神山城の正木氏、嶺上城の吉原氏が北条氏の動きに呼応し、里見氏に対して蜂起。	
弘治元年	1555	金谷城が北条氏に奪われる。	この頃、北条氏が備兵として梶原氏を迎える
永禄3年	1560	北条氏康、上総久留里城に里見氏を攻める。里見義堯、越後の上杉謙信に関東進出を要請する。	越後上杉氏・長尾氏の越山（関東侵攻）
永禄7年	1564	勝浦城主正木時忠が難反し北条方に就く。北条氏政が上総侵攻。北条氏繁が船200艘の水軍を率い安房館山を蹂躞。那古寺・延命寺焼き払われる。	第2次国府台合戦。勝利した北条氏が西上総の大半を接收
永禄10年	1567	里見義弘が三船山（富津市）で北条氏に勝利し上総に所領を拡げる。	三船山合戦
永禄12年	1568	里見義弘が市川・松戸周辺に侵攻の後推津城（市原市）に引揚げる。	推津城は里見氏の拠点
元龜元年	1570	里見義弘は窪田山（袖ヶ浦市）に城を築く。	久保田城は再建か？ 織田信長、将軍足利義昭を京から追放
元龜2年	1571	里見水軍江戸湾を渡り三崎沖で北条水軍と交戦。金沢周辺にまで侵攻。	北条水軍海賊衆山本氏、上総沿岸の半手の村々を調査
天正3年	1575	北条氏が上総国北部へ侵攻。	上杉謙信越山
天正4年	1576	東金・土気の両酒井氏が北条方に寝返る。江戸湾の半手湊として名良輪（袖ヶ浦市奈良輪）など上総国の半手の村名がみえる。	
天正5年	1577	北条氏が市原・長南方面を攻める。北条水軍が義弘居城の佐貫城の眼前で、北条水軍に敗北。義弘は北条氏に屈し、和睦。里見氏側の国衆は里見氏に服属。	里見氏は海上航行の安全を保障。交易活動を奨励
天正10年	1582	里見義頼、徳川家康と戦う北条氏直に援軍を送る。	武田勝頼、織田軍に敗れ、甲斐武田氏滅亡
天正18年	1590	里見義康、秀吉に応じて三浦半島を攻める。里見氏と従属の国衆らは上総国の領地を没収される。里見氏は安房一国の領主に。	小田原の役

表1 江戸湾をめぐる里見氏と北条氏の攻防略史

らしを支える海産物などの食料や、薪炭などの燃料供給基地でもありました。

■房総の武田氏・里見氏と相模の北条氏

室町時代の中頃、（15世紀中頃）になると関東でも、鎌倉公方と関東管領などの権門やそれらを取り巻く在地勢力どうしの争いが頻発して、戦国の世となっていました。そのような状況下で足利成氏（第5代鎌倉公方、初代古河公方）の思惑で上総に武田氏、安房に里見氏を送り込まれ、その勢力を拡大させていきました。

*鎌倉公方と関東管領：鎌倉府とは、室町幕府の将軍が鎌倉に置いた鎌倉府の長官のこと。代々、足利氏が世襲しました。関東管領とは、鎌倉公方の補佐織のこと。

代々、上杉氏が世襲しました。その任命権は鎌倉公方ではなく足利幕府にありました。元は君と臣の関係であったのですが、関東の政治動向や京都との関係のなかで、対立の道をたどります。

上総武田氏とは、武田信玄で有名な甲斐武田氏から分かれた系統で、長南城（長南町）と真里谷城（木更津市）を拠点にしています。甲斐武田氏の血統というイメージからは騎馬戦に優れた集団を想像してしまいがちですが、当時の史料から窺える上総武田氏は向地の六浦を頻繁に訪れ、また、15世紀末にあった浅草・浅草寺の火災による焼失後の伽藍再建の中心となるほどの実力者でありました。

安房に入った里見氏も、稲村城（南房総市）を拠



図1 北条氏の房総への侵攻
真鍋淳哉『戦国江戸湾の海賊』(2018)による

■海賊衆
当時、海の暮らしを営んでいた海の民は、「海夫」「海部」などとよばれていました。彼らは、在地領主のもとで日常は漁業や海上輸送に従事していました。また、彼らは公権力に保障された権限のもとで、無許可での

点にその支配を急速に伸ばし、安房の領国化に成功していました。里見氏もまた江戸湾沿岸の湊や交通の要衝に多くの城を築いていきます。
一方、向地の武蔵や相模では、伊勢宗瑞(北条早雲)を始祖とする北条氏が、永正13(1516)年に三浦氏を滅ぼして相模を平定すると、小田原を拠点に勢力を伸ばし、その目は江戸湾、そして房総に向けられました。そして二代目当主の北条氏綱は大永4(1524)年に、江戸城を攻め落とし、そこを拠点に武蔵北部や下総に攻め入るようになります。そのような行動に危機感を抱いた房総の里見・武田の両氏は、2年後の大永6(1526)年夏に、品川を攻撃し、冬には鎌倉まで入り、鶴岡八幡宮を焼失させました。その後も幾度となく江戸湾を挟んで領地争いを繰り返すのですが、西上総では、天文期(1532~55)に上総武田氏が没落し里見氏が勢力を伸ばしていくと、江戸湾の覇権争いは主として里見氏VS北条氏の様相を呈していくのです。(図1・表1)

■袖ヶ浦の海城と湊―久保田と蔵波―
戦国時代の江戸湾に成立した湊町は、富や情報が集積する場となり、利権をめぐって戦渦に巻き込まれやすい場であったため、領主たちは湊防衛の拠点として海城を築いていきます。
里見氏と北条氏の領国の境となっていた江戸湾沿岸の湊や村々は頻繁に奪奪や戦渦に巻き込まれたものと思われま。袖ヶ浦市内では久保田と蔵波、奈良輪が湊として重要な位置にあり、久保田・蔵波には海城が築かれていました。
蔵波に関しては、「蔵波前ニテ敵舟二艘ニ貴殿一艘にて勝利被成候事」と書かれた古文書が残されています。この古文書は北条氏の海賊衆であった山本氏の家伝文

通行者に対する成敗権(略奪行為)を許されることもあったようですが、集団で村を襲い略奪行為をすることも多く、恐れられていました。史料では「海賊」とされていますが、普段の彼らは「御用」も果たしながら、戦時になるとその長けた操船技術で兵士や兵糧の輸送を行い、戦闘にも参加して、国衆や戦国大名の下で活躍していたのです。
領国が海に囲まれている里見氏は、多くの海賊衆を配下に置き水軍を組織していましたが、その中でも勝浦城や金谷城を拠点にしていた正木氏が有名です。また里見氏の家臣構成などが書かれた記録には正木氏の船手頭として安西氏の名がみえます。一方、北条水軍には、西伊豆が本拠地であった山本氏や、三浦半島の先端部にある三崎城を拠点にする「三浦十人衆」とよばれた海賊衆がいました。里見義堯によって三浦が攻められた時に、北条方で活躍した5名の海賊衆に北条氏康から感状(戦功を称える賞状)が贈られているのですが、梶原氏・愛洲氏・橋本氏・安宅氏の4名が紀州熊野の海賊衆でした。北条氏は遠国の海賊衆を傭兵として江戸湾の主要な湊・海城に配備し、里見との戦を展開していたのです。

書に含まれるもので、山本氏の軍船一艘が蔵波沖で里見水軍の軍船二艘と戦って勝利したことを称賛して、北条氏配下の三浦衆が書き上げたものです。北条領(向地)でも「蔵波前」で通じるほど蔵波は知られた湊であったのでしよう。
蔵波城は現在の長浦駅前に残されていますが、その大半が開発で失われてしまいました。築城主は不明ですが、先の史料に見るとおり海からの攻撃に備えるとともに、久保田城まで迫った北条方との地上戦に備えた、里見氏の城であったようです。
久保田城は、常に境目の城として争奪が繰り返された城です。今では地形が大きく改変されてしまっているのですが、かつての海岸写真からは眼下に海を見下ろす崖の上にあった城の姿を知ることができます。(写真1)この城は武田政信によって築城されたとの伝えもありますが、元亀元年(1570)頃には、里見氏(下総進出のための城となっていたものと思われる)の後は北条氏が押さえたようですが、戦国時代の末期には、常時2500名を上番させていた節もあり、北条氏が豊臣秀吉の関東襲来に備えて、普請をおこなう城の護りを固めていたのではないかと推察もできます。久保田城は、戦国末期の西上総の緊張状態を物語る海城であったのです。(次号へ)



写真1 久保田の前浜と久保田城の位置[1960年代]

上総自然学校（里山再生活動）

真光寺の新米と自然薯

今年も真光寺の田んぼではお米の収穫を無事終えることができ、新米を好評販売中です。今年七月初旬から八月初旬までほぼ雨が降らない時期が続く、成長期に水が足りなかったせいもあって実入りが少ない稲穂や粒の小さい米が多く、総収量は二千五百キロと昨年よりも五百キロほどの減収となってしまいました。そんな厳しい状況でしたが、ご注文の方から「新米おいしかったよ」との声が届き、ほっと一安心です。

さて、十一月になると今度は自然薯の出荷の準備が始まります。昨年は種芋の状態が悪く、あまり収穫が見込めなかったため予約販売は中止いたしました。今年も試し掘りの段階で長く、太く、しっかりとした良い芋が何本も掘れました。そこで急遽十一月三日に行われた縁の会総会で先行販売したところ、大変ご好評をいただきました。



今年の芋は良い出来です！



お米と自然薯はお寺でも好評販売中です。各地への配送も承っております

イベントだより

稲刈り（九月十日）



暑さにも負けず、親子ではざがけ。



連携プレーで作業もはかどります。



2枚の田んぼを刈り終えたぞ～

今年の稲刈りイベントは暑いの一言に尽きました。気温は十時の時点で三十度を超え、日陰の無い田んぼでの稲刈り作業はもはや修行とも言える状態でした。当日はお昼を挟んで午後までの予定でしたが、あまりの暑さに午前中で帰る方が続出。そんな中で最後まで刈り続けてくださった皆様には頭が下がりました。

- ・ 1kg 箱入り…二千五百円
- ・ 2kg 箱入り…五千元
- ・ 送料…一住所につき四箱まで本州内一律 千五百円
- ・ ご注文、お問い合わせはお電話もしくはFAXにてお申し込みください。
- ・ TEL…043817517414
- ・ FAX…043817517630



写真は2kg箱入りのものです。

今年もお寺や直売所などで販売いたします。豊富な栄養素をたつぷり含んだ真光寺産の自然薯。真光寺のお米と一緒に是非一度ご賞味ください。

2024年 自然学校イベントのご案内

皆様のご参加をお待ちしております！

- | | |
|-------------------------|--------------------------|
| ・ 2月18日（日） 野鳥観察会 | ・ 5月12日（日） 田植え |
| ・ 3月24日（日） お花見トレッキング | ・ 6月1日（土） 水路の生き物観察会 |
| ・ 4月13日（土） 田んぼの畔塗りと稲苗作り | ・ 6月8日（土） 田んぼの草取りとホタル観賞 |
| ・ 4月14日（日） 田んぼの畔塗りと稲苗作り | ・ 6月15日（土） 田んぼの草取りとホタル観賞 |
| ・ 5月11日（土） 田植え | ・ 6月30日（日） イトトンボの観察会 |

※各イベントの詳細は上総自然学校のHPをご覧ください。

上総自然学校フィールドの希少な生き物たち
第十二回・ニホンマムシ

詩人 大島 健夫

マムシこそは、日本でもっとも有名な毒蛇であることは疑いのないところでしよう。

しかし、日本人の総人口のうち、野外でその動く姿を実際に見たことのある人は、もしかしたらそれほどたくさんはいないのではないだろうか。何しろこれだけうるうる歩いている私でも、生きたマムシとはそんなにしよっちゅう出会えるというわけではないのですから。そして、今後、マムシに出会う人はますます減ってゆくことでしよう。近年、各地でマムシの減少は著しく、千葉県のレッドリストでは『B（重要保護生物）』に指定されています。川原井近辺にお住まいの方には信じられないようなお話かもしれませんが、マムシはいま、まぎれもない希少種なのです。

マムシは基本的に夜行性のヘビです。体長は40〜60cm程度と小柄で、全体に太短い印象を受ける体形です。日中に出会うときには、湿気の多い道の端などにとぐろを巻いていることが多いです。誤解されがちですが、マムシは穏やかな性格の、動きの鈍い非力でおとなしいヘビで、こちらからいじめない限り、そうそう咬みつくものはありません。まずいのは、歩いていてうっかり踏みつけてしまったり、何も知らない子供が手にとろうとしたりするような場合です。1〜2m以上も離れていればまず安全です。その際、尻尾を震わせて威嚇の動作をすることもありますが、だからすぐ飛びかかってくる、という性質のものではありません。通常、人間がマムシを怖がるよりずっと、マムシの方も人間が怖



土手の隙間から這い出てきたマムシ。

いのです。毒は出血毒で、咬傷を受けた場合の死亡率は1%程度であるということです。万が一の時には慌てず安静にし、すみやかに医療機関を受診しましょう。

農家の方などは、いまだにマムシを見つけるとすぐ殺してしまうケースがままあります。しかし、マムシの減少の主な原因は、そうして殺されることではなく、むしろ農村環境、里山環境そのものの移ろいにあるとあります。

水のそばを好むマムシは、餌としてカエル類にかなり依存していると考えられています。卵と幼生の時代を水中で暮らし、おとなになると陸上で暮らすカエルという生き物は、その地域の生物多様性が健全に保たれているかどうかのひとつの指標でもあります。カエルは、自身が小さな昆虫などに対する捕食者である一方、様々な動物の餌となることで、生態系の中で大きな役割を果たしているのです。カエル類の減少には、外来種問題や汚染などよりもむしろ、圃場整備による乾田化や、耕作放棄による水田そのものの減少が大きく作用しており、それを餌としているマムシがこの国から姿を消しつつあるということは、とりもなおさず、稲作農業そのものの変化と危機をあらわしているとも言えるのです。逆に言えば、今もなおマムシが棲める場所は、間違いなく豊かな場所なのです。川原井の谷津田のように。

機械に頼らない農業が主流であった時代、マムシは確かに危険なものであったに違いありません。しかし同時に、カエル以外にもネズミを多く捕食することから農業に有益なものともみなされ、あるいは水神信仰と結びついて弁天のお使いとみなされたりしてきた歴史もあります。そしてなんと言ってもマムシは貴重な蛋白源でもありました。私が幼稚園に通っていた頃、兄が入院したため母が病院に詰めることになり、代りに母方の祖母がやってきました。働き者の祖母は私たちの食事の世話だけでなく庭掃除までやっていたいき、その際にマムシを1匹見つけてやすやすと捕まえ、「じいさんにお土産にする」といって持ち帰っていきまし

た。お土産といっても祖父とふたりで眺めて楽しむというわけではもちろんありません。調理して食べるためです。私は残念ながら一度もマムシを食べたことはないのですが、食べた人はみな旨いと言いますから、本当に旨いのでしょう。メディアが平面的でセンセーショナルなシーンだけを垂れ流すようになる前、人々は危険な動物とも、地に足の着いた実際的で複合的な関わり方をしていたのです。

いま、千葉市郊外の私の実家の庭にはマムシはいません。実家の近くの小さな弁天の社には、かつては生きたマムシを供える習慣があったそうです。その習慣も遙か昔に廃れ、おそらく今後二度とマムシが供えられることはないでしょう。

誰もマムシを見たことがない時代は、もうすぐそこまで来ています。マムシは今、幻の生き物になろうとしているのです。日本の農村文化の記憶とともに。



幻と呼ばれる日もそう遠くはないのかもしれませんが。

ニホンマムシ

Gloydius blomhoffii

有鱗目ヘビ亜目クサリヘビ科

千葉県レッドリスト・B（重要保護生物）

大島健夫

詩人。一九七四年千葉県生まれ。詩の朗読の日本選手権・ポエトリースラムジャパン二〇一六優勝。パリで開催されたポエトリースラムW杯で準決勝進出。一方でネイチャーガイドとしても活動。千葉市野鳥の会会長、日本トンボ学会会員。環境省希少野生動物植物種保存推進員。近著「千葉の昆虫図鑑」（メイツ出版）好評発売中。

新年御祈祷のご案内

新年の初詣・御祈祷は是非、真光寺へお詣りください。

【初詣とは】

年の一番初めにお寺や神社にお詣りすること。これまでの感謝報告とその年の万福多幸を願います。

【御祈祷とは】

皆さまの令和6年の無事と安息を願い、祈りの法要を執り行います。日本人は古来より人生の節目にご祈祷をしてきました。「安産祈願」に始まり「初参り」「七五三」、また、受験、引っ越しや転職など「節目」や「転換期」に神仏に報告し、足元を見つめながらより良い未来を祈ってきたのです。当山に於いても、新しい年を迎えて「この年が少しでも良い一年になるように」と初詣、そして新年のご祈祷に来られる方も多くなってまいりました。

三が日は、薬師如来の御宝前にて新年の厄除け・安全祈願・所願成就の祈祷法要を厳修いたします。事前にお申し込みの上、ご参列の方には、お名前と願意を記した木製のご祈祷札を作成し授与いたしますので、必ず事前に、代表の方のお名前と人数、①～⑱までの願意をお電話にてお知らせください。

祈祷法要はどなたでもご参加になれますが、事前申込のない場合木製のご祈祷札はご用意できません。また、人数によりお待たせすることがございますので予めご承知おきください。

■受付日時 令和6年1月1日～3日 午前9時～午後4時
※3日は正午まで ※法要は30分毎

■法要時間 約15分

■費用 3,000円～5,000円程度のお布施

■願意 木札に書き入れます。下記2つまでお選びいただけます。※2名まで連名可能

- | | | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| ①家内安全 | ②諸災消除 | ③所願成就 | ④如意吉祥 | ⑤交通安全 | ⑥商売繁盛 | ⑦厄除守護 |
| ⑧身体健全 | ⑨当病平癒 | ⑩良縁祈願 | ⑪安産祈願 | ⑫合格祈願 | ⑬身心堅固 | ⑭学業増進 |
| ⑮五穀豊穰 | ⑯千客万来 | ⑰社運隆昌 | ⑱風調雨順 | ⑲疫病退散 | | |



百	五	三	三	二	二	十	十	七	三	一
回	十	十	十	十	十	回	回	回	回	周
忌	忌	忌	忌	忌	忌	忌	忌	忌	忌	忌
大	昭	昭	平	平	平	平	平	平	平	令
正	和	和	成	成	成	成	成	成	成	和
十	五	六			十	二	二	三		
四	十	十	四	十	十	十	十	十	四	五
年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年

行事予定

真光寺と駅、バスターミナル間の送迎もありますのでご希望の方は裏表紙をご参照ください。

修正会

《檀信徒》

日時：1月3日（水）14時より
檀信徒皆様の一年の安全、諸願成就を祈願し、ご祈祷法要を行います。

山門春彼岸法要

《檀信徒》

日時：3月20日（水祝）14時より
春の彼岸供養会を行います。

縁の会春彼岸法会

《縁の会会員》

日時：3月20日（水祝）11時より
縁の会の春彼岸法要を行います。
昼食（お弁当）のご用意をいたしますので、参列申込みの際にお弁当の要・不要をお伝え下さい。
欠席の場合でも、塔婆供養を行うことも出来ます。
※要予約

戒名を考える会

《縁の会会員 特に未授戒の方》

日時：3月6日（水）
午前11時より午後2時半頃
参加費：3,000円（昼食付）
定員：10名

午前中は戒名の意味や意義、仏教知識について学びます。昼食は精進料理を召し上がっていただき、午後は住職といっしょに、漢和辞典を引きながら実際にご自身の戒名を考えます。

七日法要

《縁の会会員》

日時：1月7日（日）11時より授戒式・月例供養、昼食（餅つき）午後は新年の祈祷法要
2月7日（水）11時より授戒式・月例供養、昼食（精進料理）午後は坐禅・写経・写仏
3月7日（木）11時より授戒式・月例供養、昼食（精進料理）午後は坐禅・写経・写仏
4月7日（日）11時より授戒式・月例供養、昼食（お弁当）午後は植樹祭
植樹祭は1年でこの日だけご自身の区画に植樹が出来る日です。植木はお寺でご準備いたしますので、ご希望の樹種を選び区画内にお植えください。
5月7日（火）11時より授戒式・月例供養、昼食（精進料理）午後は坐禅・写経・写仏
※要予約
※午前、午後のおみの出席もできます。

ご詠歌練習日

《どなたでも参加できます》

ご詠歌はお釈迦様、お祖師様の教えや、亡き人を偲ぶ心を詞に表し、音楽に乗せてお唱えするものです。初めての方にも丁寧にご指導いたします。

参加費：無料

2月	13日・27日	5月	14日・28日
3月	12日・26日	6月	11日・25日
4月	9日・23日	7月	9日・23日

時間：15時～16時半

坐禅会

《どなたでも参加できます》

日時：毎月第2・第4土曜日
15時00分～16時30分

布施：500円程度

初心者の方も気軽に参加下さい。初めての方は坐り方指導をいたしますので、14時半までにお越し下さい。

仏像彫刻体験教室

《どなたでも参加できます》

日時：毎月第1・第3水曜日
13時30分～16時30分

費用：1回4,000円

お申し込みは仏師 鈴木先生まで（TEL. 0438-63-2848）

真光寺囲碁の会

《どなたでも参加できます》

日時：3月14日（木）～15日（金）
14時開始 翌日13時30分解散

参加費：8,000円程度 1泊3食

囲碁をはじめてみませんか？初心者の方も大歓迎です。日帰りのご参加も可能ですのでお問い合わせください。

※要予約

行事予定

精進料理と聖典講読の会 《どなたでも参加できます》

日時：1月24日(水) | 3月13日(水)
2月28日(水) | 4月17日(水)

午前11時～午後2時30分

参加費：3,000円程度 昼食付(精進料理)

※要予約



◀ 7月の会では、ブッダが悟りをひらいた時のお話をしました。善悪とは何か、ブッダの教えをどのように日常に生かすか住職から解説がありました。

精進料理 7月の献立 ▶

- ①白米
- ②なめことおくらの味噌汁
- ③揚げ茄子・ししとう・人参の天ぷら 刻み生姜のせ
- ④馬鈴薯のバジルサラダ
- ⑤麩とわかめの酢の物
- ⑥みょうがのナムル
- ⑦キュウリの香菜



写経会 《どなたでも参加できます》

日時：1月17日(水) | 2月15日(木)
3月13日(水) | 4月18日(木)
5月15日(水) | 6月20日(木)

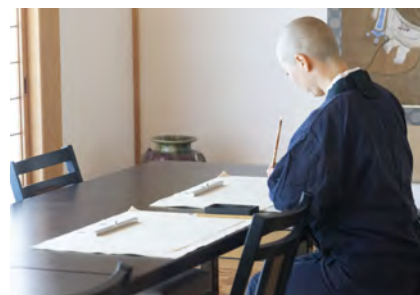
13時00分～14時30分

布施：1000円程度

写経は祈願・供養、精神を落ち着けるため、お経を書写するものです。夕照庵(小書院)にテーブルと椅子を置きました。ゆったりとした静かな空間で、心を整えて写経ができます。新年から、写経会を定期的で開催いたしますので、ぜひご参加ください。

※道具は用意してありますが、ご持参されても結構です。

※要予約



送迎のご案内【午前】

□電車の方

- ・上り電車の方(君津発千葉行き)
JR内房線「袖ヶ浦駅」10時05分着
- ・下り電車の方(快速君津行き)
JR内房線「袖ヶ浦駅」10時10分着

□バスの方

【土日祝】

- ・品川発9時00分→袖ヶ浦BT 9時52分着
- ・横浜発9時00分→袖ヶ浦BT 9時46分着
- ・川崎発9時15分→袖ヶ浦BT10時17分着
- ・新宿発8時50分→袖ヶ浦BT 9時48分着
- ・東京発9時10分→袖ヶ浦BT10時00分着

【平日】

- ・品川発9時00分→袖ヶ浦BT 9時52分着
- ・横浜発9時00分→袖ヶ浦BT 9時46分着
- ・川崎発8時40分→袖ヶ浦BT 9時37分着
- ・新宿発8時50分→袖ヶ浦BT 9時48分着
- ・東京発9時10分→袖ヶ浦BT10時00分着

送迎のご案内【午後】

□電車の方

- ・上り電車の方(快速逗子行き)
JR内房線「袖ヶ浦駅」13時05分着
- ・下り電車の方(千葉駅発木更津行き)
JR内房線「袖ヶ浦駅」12時50分着

□バスの方

【土日祝】

- ・品川発12時00分→袖ヶ浦BT12時52分着
- ・横浜発12時00分→袖ヶ浦BT12時46分着
- ・川崎発11時30分→袖ヶ浦BT12時32分着
- ・新宿発11時50分→袖ヶ浦BT12時55分着
- ・東京発11時40分→袖ヶ浦BT12時30分着

【平日】

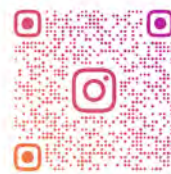
- ・品川発11時50分→袖ヶ浦BT12時42分着
- ・横浜発12時00分→袖ヶ浦BT12時46分着
- ・川崎発11時15分→袖ヶ浦BT12時17分着
- ・新宿発11時50分→袖ヶ浦BT12時55分着
- ・東京発11時40分→袖ヶ浦BT12時30分着

各種お申込み連絡先

真光寺 〒299-0201 千葉県袖ヶ浦市川原井634

TEL 0438-75-7414(代表) / 0438-75-7365(縁の会事務局) FAX 0438-75-7630

Email ennokai@shinko-ji.jp(縁の会) / satoyama@shinko-ji.jp(上総自然学校)



SHINKOJI.ZEN

Instagram始めました!